



# みんなで乗ろう 「おきなわ イチャリバス！」

名桜大学国際学群三年次 観光産業専攻 玉城妃奈子



# アイディアの背景 (1)

- 昨年度、沖縄へ訪れた観光客数

716万9900人

- このうち沖縄観光者の8割がリピーター

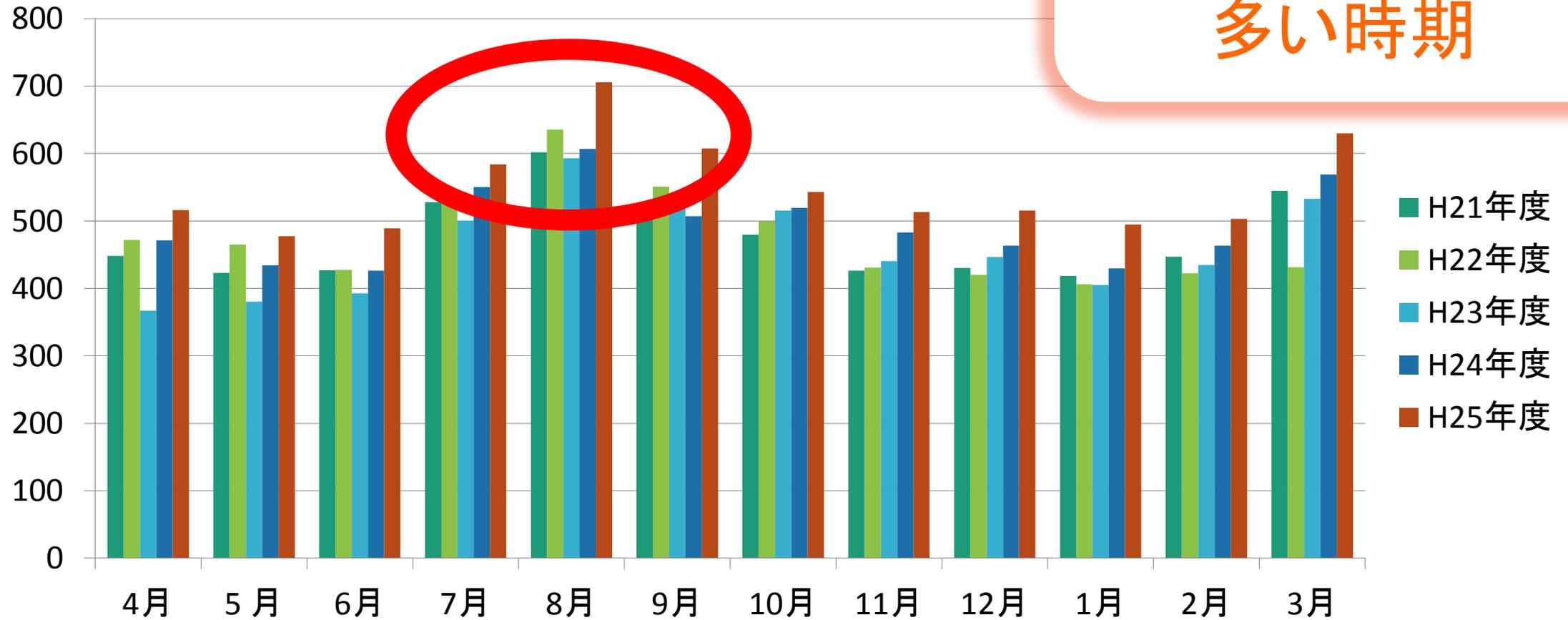


過去最高

今後増えていくリピーター層に  
これからも沖縄を訪れてもらうには？

# 沖縄県の月別観光入域客数

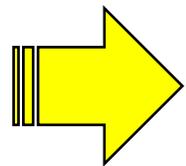
7月～9月  
観光入域客数が多い時期



平成25年度 観光要覧 月別入域観光客数の推移(平成21年度～平成25年度)より作成

# アイディアの背景(2)

しかしながら一方で、観光バスは



**利用者が減少傾向 夏期のボトム期**

H19年度頃から減少しており、H25年度では利用状況が他の交通機関と比べても20%を下回っている

考えられる要因・・・

団体旅行から  
フリーパックプラン型旅行  
個人旅行へのシフト  
レンタカーが主要な移動手段

主な利用者である  
修学旅行の入込は  
5月、10月～12月  
7月8月は夏休みにあたる

# 提案

7月～9月  
観光シーズン期

観光バス閑散期

リピーター層に向けた  
募集参加型のバスツアー

# いちゃりばちよーでー × バスツアー

= 出会えば皆、兄弟

おきなわイチャリバス

コンセプト

うちなーんちゅと  
一緒にドライブ感覚



# イチャリバスの内容

単なるバスツアー、観光地巡りではなく

沖縄へ何度も来ているリピーター層に向けてのツアー

★沖縄独自の食文化、伝統芸能、ゆったりした時間の流れ  
日常の沖縄を知る、地域住民とのふれあい・交流があるツアーへ  
沖縄県民も、イチャリバスツアー参加OK！！

ツアー企画を各市町村、地域住民で提案し  
アイデアを募る(地域に密着したツアーへ)

# イチャリバスの内容

★バスガイドは地域のオジー・オバーや県民の協力を得て行う

地域住民で行うことで、観光客がこれまで知らなかった  
場所への訪問や新たな沖縄の魅力を紹介できるのでは？

バス車内において、三線の演奏、民謡や民話を披露してもらう  
戦争体験談・地域の昔の姿・地域行事の紹介など…

★うちなーたいむ、ゆったりした時間の流れを演出し、楽しんでもらう

交通における課題 「観光客が抱く交通渋滞」への不満を緩和

(例) 集合時間の10分前後は出発しない など

沖縄の人々 × 観光客 が交流できる体制に

# 実現可能性

## ①バスの運行について

(乗り合い観光バスを応用、複数の観光客が乗り合わせる)

**【観光バス会社の小型観光バス限定による実施】**

- ・7月～9月(観光バスボトム期)の期間限定
- ・バス自体の空席を無くす
- ・大型バスでは入ることのできない場所までアクセス
- ・少規模で行うことにより、より密接な交流を促進
- ・車内サービスを充実 (例)ポーク玉子おにぎりサービスなど

# 実現可能性

## ②イチャリバスに乗車し、案内するバスガイドの募集

【既存のボランティアガイドの活用や各市町村でガイドを募集】

イチャリバスのバスガイドとして認定し、認定書を贈る

## ③イチャリバスツアー参加者の募集

【紙媒体、web・SNS、口コミによる周知活動】

- ・ポスターの掲示やパンフレット作成、ネットによる情報伝達
- ・リピーターの口コミによる効果を利用し、ツアー参加者へイチャリバスの紹介券を配布し、知人・友人にツアーを宣伝してもらう

# イチャリバス運行によって



観光バスの夏季における  
ボトム期の解消・緩和

シニア層の長距離運転の  
負担低減

土地感覚のない  
外国人観光客の移動手段

# イチャリバス運行の応用



学生版イチャリバスの実施  
県内学生 × アジア地域の学生  
＝沖縄旅行未経験者の新規需要の開拓

イチャリバスのもう一つの大きな目的

観光客と沖縄県民  
双方による 交流と理解

# イチャリバス内での交流を通して

## \* 沖縄県民・住民(ホスト側)

観光客が沖縄にどのようなことを求めているかを知る  
＝ 観光客受け入れ態勢の向上

## \* 観光客(ゲスト側)

イチャリバスで訪れた場所や出会った人々に再び会いに来る  
＝ 沖縄をまた訪れるきっかけに

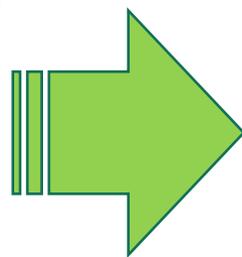
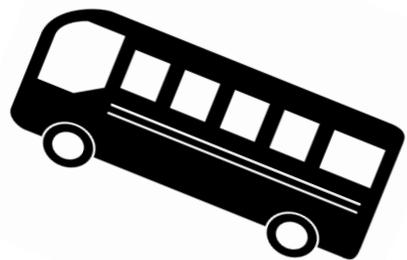
「沖縄の魅力」だけではなく、沖縄県民と関わることで  
地上戦があった過去・戦後70年を迎えても地域が未だ抱える問題など・・・  
ガイドブックには載らない「本当の沖縄」を知る機会に

# 平和の島 おきなわへ

\* 観光は平和産業と呼ばれる

しかし、訪れる場所・地域が平和でなければ観光は成り立たない  
平和の第一歩は、「理解」から始まるのではないか？

人と人の出会いを提供する観光、  
沖縄の観光産業が今後も発展していくために  
観光客と沖縄県民の相互交流と理解が大切



相互交流と理解を  
このバスから始めていく！

# 参考文献

- 沖縄県(2014) 『平成25年 沖縄県観光要覧』
- 沖縄県(2014) 『平成25年度観光統計実態調査』
- 新崎盛暉・謝花直美・松本 剛・前泊博盛・亀山統一・仲宗根将二・太田静男(2011) 『観光コースでない 沖縄 第四版』 株式会社高文研